



2025～2026 年度
RI 会長メッセージ

UNITE FOR GOOD
よいことのために手を取りあおう

豊橋北RC
会長テーマ

利他と言う高みに登る為に
本気でやるべきことを
皆でやりましょう

2760 地区

例会日＝毎週火曜日 12:30 例会場＝ホテルアークリッシュ豊橋 会長 高坂泰弘 副会長 酒井和良 幹事 川口和樹

豊橋北ロータリークラブ 〒440-0075 豊橋市花田石塚 42-1 豊橋商工会議所内 TEL(0532)53-1000 FAX(0532)53-6447

第 3 2 2 2 回例会

8 月 19 日〈火〉

vol. 70 No. 5

ゲ ス ト : 井上亜里沙氏(Sakura Projects 代表)・井上裕介氏(Sakura Projects ディレクター)

ビ ジ ター : なし

出 席 報 告 : 会員 58 名 欠席 13 名 出席率 77.59% 前々回修正 79.59%

ロータリーソング: 奉仕の理想

メニュー: 洋 食

会長挨拶・報告

高坂泰弘会長



本日のゲストは Sakura Projects 代表の井上亜里沙様、同じくディレクターの井上裕介様です。

異常な暑さが続いております。お体には十分ご自愛ください。今年のお盆は戦後 80 周年という区切りで、そういった面からも色々と熱い報道が沢山流れて参りました。しかし、私たち豊橋市民としましては、それ以上に熱い出来事がありました。

豊橋中央高校の甲子園出場です。豊橋からは実に 74 年ぶりの出来事です。

中立清昭会員のご子息である大翔選手も 1 年生でありながらレギュラーとして出場し活躍されました。お父様がこの場にいらっしゃる以上、私の無粋な会長挨拶はここまでとして、中立会員に場をお譲りしたいと思います。

して地域の皆様の温かい応援、その全てが彼の背中を押してくれました。こんなにも多くの方々が支えてくれることに、親として感謝の気持ちでいっぱいです。

試合後、息子がぼつりと「応援の声が聞こえた瞬間、緊張がふっと消えた」と言っていました。その言葉を聞いて、応援の力、人とのつながりの尊さを改めて感じました。

これからも彼が野球を通して学んだ感謝の心を忘れず、どんな場面でも恩返しができる人間に育ってくれることを願っています。そして私自身も、親として地域の皆さんに少しでもご声援の恩返しができればと思います。これからも温かく見守っていただければ幸いです。本日は貴重な時間を頂きましてありがとうございました。

【マルチプル・ポール・ハリス・フェロー バッジ贈呈】 鈴木大次郎会員



中立清昭会員

中立大翔(ひろと)の父、中立清昭です。例会前に豊橋中央高校の甲子園での試合の映像を流していただきましたが、親心としては非常に胸が苦しい試合でした。点数が欲しい時に打てず、このことはずっと心に残っていくのではないかと思います。

甲子園出場が決まった時から、皆さんより沢山のご声援を頂きまして、心より感謝申し上げます。息子は豊橋から 74 年ぶりに夏の甲子園に出場することができました。県大会の予選の前に息子から「必ず甲子園の土を持って帰ってくる」と言われたことを今でも思い出します。一回戦で敗れてはしまいましたが、約束通りシューズ袋に入れて甲子園の土を持って帰ってきてくれて、とても嬉しかったです。思っていたよりも黒かったですが、これには保湿や白いボールが見えやすいなどの理由で夏はそのような配合にしているそうです。

1 年生ながらレギュラーとしてファーストを任せられ、あの大舞台に立った姿を見た時には、本当に胸がいっぱいになりました。あの瞬間に泥だらけのユニフォーム、早朝のランニング、悔し涙、全てが報われた気がしました。しかし、彼がそこに立つことができたのは、決して一人の力ではありません。監督、コーチの皆さんの熱心なご指導、先輩方の励まし、仲間との絆、そ

2024-25 年度出席 100%記念品贈呈



27名の会員名を代表して、竹内稔弘会員に高坂会長より記念品(シェーファー100 ボールペン)を贈呈しました。出席 100%の会員は以下の通りです。

竹内稔弘会員	福井英示会員	山内有恒会員
高坂泰弘会員※	岡本敏幸会員	八木基之会員※
熊田嘉一郎会員	下山暢子会員	金森正芳会員
村田裕会員	安達道行会員	酒井和良会員※
石川誠会員	越智成幸会員	渡辺康二会員
川口和樹会員※	小森宇生也会員	松井幹晴会員
河合成高会員※	田崎政秀会員	杉野公郎会員
浅野卓会員	中沢拓也会員※	小林利生会員
橋本努会員	辻直樹会員	藤井純一会員

※はホーム 100%出席

竹内稔弘会員

記念品を頂きましてありがとうございます。私は入会してから45年になり、あと2か月で87歳ですが、ずっと出席100%の表彰を受けております。健康第一だと思います。皆さんもしっかり検診を受けて、元気に例会に出席しましょう。

幹事報告

川口和樹幹事

①今年度の地区大会は全員登録とさせていただきます。本日、状差しに登録料の請求書を入れさせていただきました。ご協力の程、よろしくお願いいたします。
②ロータリーの友8月号を状差しに配布しました。

例会変更

8月27日(水) 豊川 RC 豊橋東 RC
8月29日(金) 新城 RC
9月2日(火) 田原パシフィック RC
9月8日(月) 豊橋南 RC
9月9日(火) 豊川宝飯 RC

例会休会

8月27日(水) 渥美 RC
9月2日(火) 豊橋北 RC
9月4日(木) 田原 RC
9月5日(金) 新城 RC

ロータリーの友紹介

渡辺康二広報・雑誌委員

8月号の紹介 会員増強・新クラブ結成推進月間
横組み 2-3 頁:RI 会長メッセージ
フランチェスコ・アレツォ
33 頁:特集 会員増強・新クラブ結成推進月間
会員増強のためのヒント
誰もが活躍できる社会を目指して
国際的・文化的・人道的な活動を！
2720 Japan O.K. ロータリーE クラブ 植山朋代
42 頁:今月の画家
縦組み 2-6 頁:“復活”したトランプの世界戦略
国際政治学者・放送大学名誉教授 高橋和夫
7-10 頁:この人訪ねて 酒井秀光さん 勝浦 RC

委員会報告

豊橋北 RC 奨学金基金

藤井純一委員長

鈴木伊能勢会員より 1 万円、松井幹晴会員、辻直樹会員、藤井純一、藤城寿彦会員より 1 千円の寄付がありました。ありがとうございました。

国際奉仕委員会

藤井純一委員長

「愛の小銭箱」へのご協力よろしく申し上げます。
(集計結果: ¥23, 000)

会員増強委員会

石川誠委員長

次週の例会は木所壮太地区会員増強委員長をお招きして、会員増強についてのお話をさせていただきます。あわせて私の方から当クラブの会員増強の今年度の方針についてお話をさせていただきます。また次回体験例会の方が 2 名参加されますのでよろしくお願いいたします。

ニコニコボックス

匹田雅久会場委員

匹田雅久会員	①530 運動の環境大臣表彰報告の為、市長を表敬訪問しました。②CRT-D の交換をしました。これで5~6年は心臓が動きます。
渡辺康二会員	「ロータリーの友」8月号を紹介させていただきます。
辻直樹会員	井上亜里沙様、井上裕介様、本日の卓話を楽しみにしています。よろしくお願いいたします。
中立清昭会員	豊橋から 74 年ぶりに甲子園に行かせていただきました。ありがとうございました。
高坂泰弘会員 川口和樹会員	Sakura Projects 井上亜里沙様、井上裕介様、ようこそ豊橋北 RC へ。ご来訪を心より歓迎します。本日の卓話楽しみにしております。

本日のプログラム

担当: 青少年奉仕



辻直樹委員長

本日の例会は「サイエンスでくらしに花を咲かせよう」というテーマで、Sakura Projects 代表の井上亜里沙さんにお話をさせていただきます。実は亜里沙さんは私のいとこの娘にあたります。時習館高校を卒業後、群馬大学医学部へ入学しましたが、教員を目指して愛知教育大学初等理科専攻に転入されました。卒業後は教員として、豊川市立小坂井西小学校に平成 27 年まで勤務し、その後、豊橋市役所こども家庭課母子父子自立支援委員として勤務されました。現在は家庭教師業とコーヒー栽培販売を営む傍ら、Sakura Projects を立ち上げ、科学の魅力を広めていきたいと思います。

今年の 11/2(日)には、イオンモール豊川で「とよかわサイエンスフェスティバル」を開催予定です。現在、協賛・協力企業を募集されていますので、ご関心がある方はご協力をお願いいたします。それではよろしくお願いいたします。

【サイエンスでくらしに花を咲かせよう】

井上亜里沙氏



一般社団法人 Sakura Projects 代表理事の井上亜里沙です。本日は現在取り組んでいる活動と、今までの活動実績、そして今後の活動目標についてお話しさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(一社)Sakura Projects は多くの人に科学をもっと身近なものに感じていただく為のイベント等の企画・運営を行っている非営利団体で

す。コンセプトは「サイエンスでくらしに花を咲かせよう」で、

この「サ」と「くら」、そしていつか私達の科学に関する取り組みという花が咲きますようにという思い、また東三河には多くの桜の名所があるということにもちなんで「サクラプロジェクト」と名付けました。アメリカでは桜の花言葉に「優れた教育」というものがあるそうです。

科学技術の進歩がめざましい現代社会に必要なのは、科学を身近なもの、私達の生活を豊かにする素晴らしいものと捉えることのできる優れた科学教育だと思います。子ども達だけではなく、大人も含む多くの人々の科学教育の一助となる取り組みをしたい、私達はそう考えております。私達が思い描くビジョンは、科学リテラシーを高めること、科学に関する新しいプラットフォームを創ることです。

科学リテラシーとは、科学的な知識や考え方を理解し、それを用いて現実・世界の問題を解決したり、意思決定をしたりする能力のことです。昨今、AI 技術の発展が取り沙汰されています。AI には何ができるのか、どのように私達の生活を豊かにする可能性があるのか、どのように正しく技術を使うことができるのか、そういった知識や考え方、問題解決、意思決定が AI 技術においても必要だと言えます。今後出現するであろう新たな科学技術についても、科学リテラシーは必要不可欠です。

また科学に関するプラットフォーム創りとは、科学を学ぶことができる場創りのことです。様々な分野の科学を学ぶことができる科学館や科学イベントがこれにあたります。科学を学びたいと思った時に、自由に学ぶことができる場所があるということは、科学リテラシーを高めることにもつながります。

科学は楽しい、面白い、もっと学びたい、調べたい、そのように思う人を増やし、そのような人達が学ぶことができる環境を創る、これが私達 Sakura Projects が目指す、未来の科学教育の姿です。その為に私達がすべきだと考えているのは、科学イベントの企画・運営、地域の教育機関、自治体との連携です。

科学イベントとしては、昨年開催した「とよかわサイエンス夏祭り」、今年 11 月に開催予定の「とよかわサイエンスフェスティバル」があり、その他にも様々な科学イベントを計画中です。これらのイベントを進めていくことで、科学に対する関心が高まり、もっと科学を学ぼうという風潮が高まっていくのではないかと思います。

科学教育という分野は学校をはじめとする地域の連携が必要となる分野です。地元の自治体、教育委員会、地元企業、地元住民の方々と共に、科学教育を盛り上げていく姿勢を創っていきたくと考えています。その為にイベントの後援、協賛を頂いたり、関係各部署への働き掛けを行っております。

続いて、私が何故こういった活動を行っているのか、そもそもどういう人間なのかお話をさせていただきます。私は以前、公立小学校の教員をしていました。当時は 30~40 名の学級担任をしており、厳しくて怖い先生、でも一寸面白くて新しいことをしてくれる先生というイメージだったそうです。

学校に来ること、授業を受けること、学校生活というのは子ども達にとって当たり前のことでありながら、とても大変でストレスにもなりうるものです。その中で少しでも勉強が楽しくなるように、黒板に漫画のキャラクターとメッセージをかいいたり、授業をロールプレイングゲームのようにしたり等、様々な工夫をして子ども達に「学ぶことは楽しい！」ということを伝えようとしてきました。子ども達は楽しいと言ってくれましたが、集団教育ではどうしても全ての子ども達と十分に向き合うことはできません。私と全く話さずに一日を終える子もいます。

そのような毎日がやりきれず、私は教員を辞めて「てんと学習塾」という個別学習塾を開くことにしました。教員の時の教え子だった子の個別学習から始まり、今では小学生から高校生の個別授業、大人の教養の授業、企業研修等、100 名以上に対し

て授業を行ってきました。一人一人の要望に合わせた教材を準備して、授業も生徒とじっくり向き合うことができるので、小学校の教員だった頃のやりきれなさは解消されました。

しかしそのような中で新たな悩みも感じるようになりました。私の専門が理科なので、子ども達に「科学が好きか」を子ども達に聞いたところ、子ども達の多くから帰ってくる答えが次のようなものでした。

「科学や理科は覚えることが多いから嫌い。こんなこと知らなくても生きていけるし、別にわざわざ学ぶ意味がない」

このような思いは定期試験が始まる中学生から段々と沖くなる傾向があります。中学になって理科や科学が嫌いになった子も少なくありません。実験は楽しいけれど、理科や科学は嫌いという子も多いようです。

ここで Sakura Projects の YouTube 動画をご覧ください。

《映像上映》

「科学=science」の語源は、ラテン語の動詞「scio(スキオー)」に由来しているそうです。「scio」は「知る」という意味です。つまり科学とは「学び知ること全て」ということになります。科学というのは理科だけに留まらないということを知っていただければと思います。

一例として UFO キャッチャーを挙げてみます。どうすれば途中で落とさずに穴まで運ぶことができるのか、一番取りやすい景品はどれか、掴んで落とす以外の方法はないか等、たくさん考えてなるべく少ない金額で自分の欲しい景品を取ろうとします。実はこれも科学的思考です。クレーンゲームを通して仮説、実験、検証、考察という科学的思考を自然に行っているということになります。

ゲーム、スポーツ、アニメ、漫画といった遊びのようなものにも全て学びがあると考えれば、全てが科学だということができると思います。私達の身の回りには多くの不思議、学びの種があります。それは勉強だけでなく、遊びの中からも見つけることができますが、殆どの人は気づかずに通り過ぎてしまいます。科学という考え方を身につけて学びの種に気づき、調べ、深めることで、科学はもっと身近なものになり、人生をより良く楽しいものにしてくれます。

私は科学によって「学ぶことは楽しい！」ということをより多くの人に知ってもらいたい、そう考えてこの Sakura Projects の活動を始めました。そういった思いで初めて開催したのが、昨年の「とよかわサイエンス夏祭り」です。まずはダイジェスト動画をご覧ください。

《映像上映》

とよかわサイエンス夏祭りは 2024 年 8 月 10 日、やねのにつばうホール豊川で開催しました。来場者数は約 1,200 人と、多くの方が足を運んでくださり、イベントは大盛況となりました。大学の化学サークルによる迫力満点の実験ショーや、企業、高校生、大学生、一般の方々による科学ワークショップなどが開催され、有志の高校生、大学生、社会人の方々、ボランティアの中学生、小学生等、多くの方々の協力によってイベントを成功させることができました。各市の教育委員会、自治体、企業様等から、多くのご支援も頂きました。

以下、イベントの実績について簡単に紹介させていただきます。来場者は豊川及び周辺地域からの方が多かったですが、西三河から来ていただいた方もいらっしゃいました。アンケートではイベントに「非常に満足」と「満足」という回答が約 3 分の 2 でした。イベントを知った経路は「チラシやポスター」か

らという方が大半でした。小学校に配布したチラシを握りしめて来場してくれた子ども達も大勢いました。

また、アンケートでは「科学館ができれば行きたいか」も質問もさせていただき、大多数の方が「はい」という回答でした。身近に科学を学ぶことができる施設が求められていると実感しました。

私達が次に取り組んでいるのが「とよかわサイエンスフェスティバル 2025」です。今年の 11 月 2 日(日)にイオンモール豊川で開催予定です。イベントの目玉は「東三河自由研究コンテスト」、「企業出展ブース」、「サイエンスショー」の 3 つです。

東三河自由研究コンテストは、小学校低学年、中学年、高学年、中学生の 4 部門に分かれており、それぞれの優秀者を選びます。一般的な自由研究コンテストとの違いは、テーマが「自由」ということです。理科でなくても OK、自分が好きなこと、調べたいこと、ゲームやアニメ、漫画、なんでも OK です。自分が好きなことについて調べてまとめ、研究の内容が審査によって選ばれた人は、イオンモールの大きなサイネージを使って、プレゼンテーションができます。自分の好きなことを多くの人に知ってもらい、伝えることができる、それが東三河自由研究コンテストの大きな特徴です。

企業出展ブースでは、子ども達が楽しむことができるワークショップを開催し、科学や企業の取り組みに興味を持つきっかけを創ります。学校では教わらない体験を伴った学び、子ども達に特別な体験を提供することができ、企業アピールにもつながると思います。

サイエンスショーでは大学生の科学実験チーム「サイエンスワークショップ」が、様々な実験道具を使って、ワクワクドキドキの楽しい実験ショーを行います。ドライアイスや空気砲、放電実験等、迫力満点の科学実験ショーです。

とよかわサイエンスフェスティバルの他にも、企業見学、自治体への特別授業、講演会等、様々な科学教育事業を計画しています。このような私達の取り組みには、多くの方のご協力が必要です。現在、一緒に科学イベントを盛り上げて下さる企業様を募集しています。私達の取り組みに少しでも興味を持っていただけたら、是非ご連絡いただければ幸いです。

Q. 学校でも教育に限界を感じて教員を辞められたということですが、自分が教えきれないと感じた問題点や課題というのは何だったのでしょうか。

A. 私が効率の小学校にいた当時は現在よりも人数が多い 40 名学級とでした。子ども達はそれぞれ習熟度も異なっていますので、どうしても自分一人では子ども達一人一人を見ることができませんでした。教材の工夫等もしましたが、それでも追いつかない、私自身が納得がいけないというところもありました。それが公教育というものではあるのですが、私自身がやるせないようなものをずっと感じていたということがあり、それが私が思う学校教育の限界だったのではないかと思います。決して学校教育が悪いということではなく、それと個別学習を掛け合わせることで、その子がより一層輝けるのではないかと思います。思いから、学校教育の現場を離れたということです。

Q. てんと学習塾のチラシには「受験対策」ということも書いてありますが、自由に楽しくということとテストで良い点を取るための勉強というのは矛盾があるように感じますが、どこで一致するのでしょうか。

A. テストのための勉強の中でも、ここに視点を向けると更に楽しいということが分かるのではないかと思います。私の授業では、例えば化学式のカードを使ってゲーム感覚で楽しく覚えるという工夫をしています。「面白い」と感じてもらってから、

テストの問題のこの部分をこう見ると面白いということを伝えます。テストが面白いと感じさせることができればこっちのものです。ただ覚えるだけではなく、ストーリーを理解するとともに勉強は楽しくなるということが分かるような授業を心掛けています。その為には一人一人がどの位の知識を持っているか、どうすれば楽しいと思えるのかということ进行分析しなければいけません。そういったことから個別学習、オーダーメイドの授業を行っています。何故これを学ぶのか、これを学ぶと何が楽しいのかということをお伝えしています、

Q. 「何で理科を勉強しなくてはいけないのか」と言われた時に、普段現場ではどのように答えていますか。

A. 「これを覚えて何の為になるのか」「覚えなくても検索すればすぐ出てくる」というようなことはよく言われます。例えば観光地等に行った時、説明の看板を見て習ったことが出てくると「これ知っている」となり、その「知っている」ということが「楽しい」につながるきっかけになると思います。自分の経験からも、知っていることのストックを増やしていくと楽しいということをおっしゃっているのですが、大抵の場合は伝わりません。そういう時は暗記ゲームで私と競い合うなど、暗記ではなくゲームを目的にします。そうすると自然と覚えていき、テストで良い点が取れるようになったということもあります。皆さんも大人になってから「学生の頃やった」、「学生の頃見た」という経験をして、何となく楽しいと思ったことがあるのではないのでしょうか。子ども達にはまだそういう感覚は伝わらないことではあると思いますが、「そういうことがある」ということを一大人の視点から言っているという現状ではあります。



監修・発行	会場委員会
写真撮影	会場委員会